

# 1. 構想の概要

## 【構想の名称】

「世界から日本へ、日本から世界へ」 一人と知の循環を支えるネットワーク中核大学ー

## 【SGUの取組を通じて目指す大学の将来像】

東京外国語大学は、平成26年5月に立石学長によって宣言された『TUFSネットワーク中核大学創成宣言』において、本学の10年後を見据え「第1に、真の多言語グローバル人材を養成する大学。第2に、日本から世界への発信を担う大学。第3に、世界諸地域の知識・経験をもとに、日本の大学のグローバル化を支援する大学」を目指している。本学は、SGUの取組を通じ、本宣言の内容の実現をめざす。この将来像の実現は、本学のみならず、わが国の大学全体、ひいてはわが国の発展に寄与するものである。

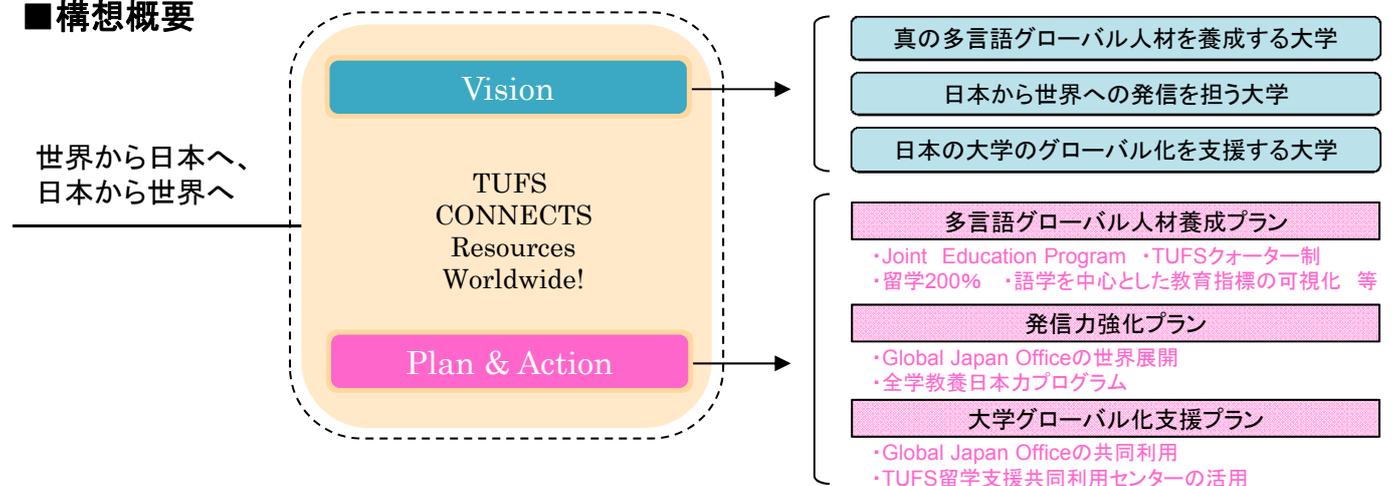
## 【構想の概要】

本構想は、グローバル化と同時に多様化が進む地球社会において、本学がこれまで培ってきた日本を含む世界諸地域の知識・経験をもとに、「ネットワーク中核大学」として、「多言語グローバル人材の育成」と「日本の発信力強化」、そして「他大学の国際化への支援」という3つの課題に総合的に取り組むという先導的事業に挑戦し、これを実現させることで、わが国の大学のグローバル化を牽引することを目指すものである。

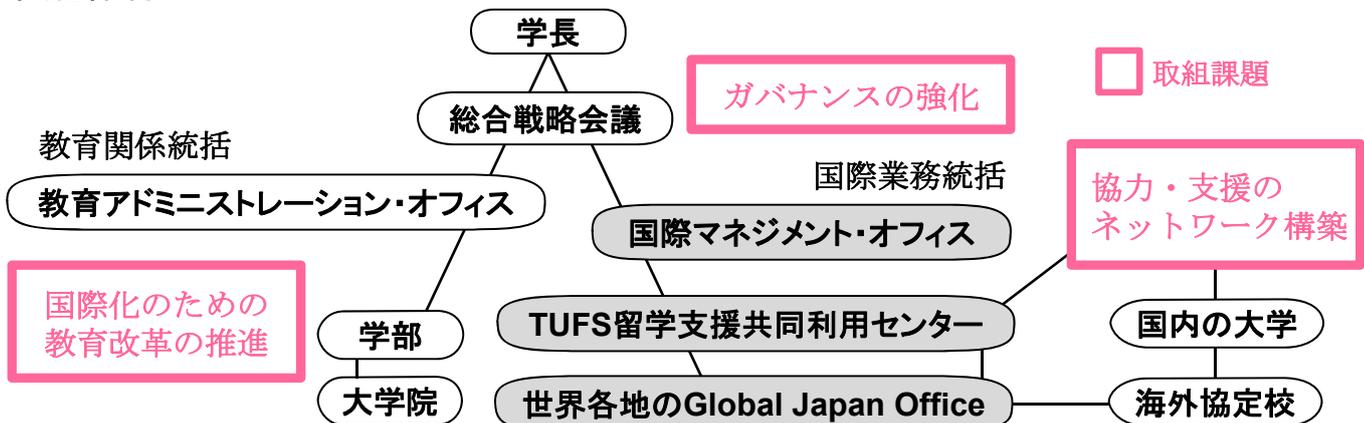
まず、「多言語グローバル人材」とは、現実の社会を構成する、英語に限られない極めて多様な言語、文化、社会に分け入り、グローバル化時代に効果的な活動をなし得る人材である。これらの人材の育成に向けて、本学では、TUFSクォーター制の導入、留学200%の実現、Joint Education Programの実施等に取り組む。次に、「日本の発信力の強化」実現に向けては、世界に向かう日本人学生に必要とされる「日本語教授法、日本の文化・社会」に関する教育を確立し、また、日本語教育・日本紹介等を行う拠点として海外協定校に「Global Japan Office」を設置する。最後に、「他大学の国際化への支援」に向けては、海外の協定校に設置する「Global Japan Office」、また、本学内に設置する「留学支援共同利用センター」において、本学が世界諸地域との交流の中で蓄積してきた知的資源・ノウハウを他大学に開放する。

これらの取組を通じた本構想の実現は、「世界の言語とそれを基底とする文化・社会に関する教育研究」という本学の目的達成と同時に、わが国の大学の国際化の双方に貢献する。

### ■ 構想概要



### ■ 実施体制



## 【10年間の計画概要】

(関連目標) 現状(H25) → 設定目標(H35)  
※太字はSGU採択校の平均と比べて高水準のもの

### ○ 教職員の多様化・高度化への取組

- ・ 外国人あるいは外国で教育研究歴を持つ教員等を採用し、事業の円滑な推進と教職員の多様化を図る。
- ・ 事務職員の語学研修や海外研修を実施し、大学の国際化支援体制を強化する。

◆外国人教員…… 38人 → 65人 外国での研究教育経験者含む比 81% → 94%

### ○ 留学生受入増への取組、本学からの派遣留学生増への取組

- ・ 交流協定校の拡大や、Joint Education Programなどの短期留学等を拡大し、受入留学生と派遣留学生を増加させる。

◆外国人留学生数(通年)…… 698人 → 1,216人 全学生数比 15% → 26%  
◆大学間交流協定に基づく派遣学生数(通年)…… 310人 → 1,672人 全学生数比 7% → 36%  
◆Joint Education Program実施数…… 3件 → 50件

### ○ 言語関係の取組

- ・ 英語力の最低保証として「TOEIC800点」の目標を掲げ、卒業時まで学生に達成するよう指導するとともに、英語以外の言語については、CEFR等の国際標準に基づいた言語運用能力指標の設定を行う。

◆TOEIC800点到達者(学部)…… 1,077人 → 3,907人 全学部学生数比 27% → 83%

### ○ 教務システムの国際化の取組

- ・ TUFSSクォーター制への移行により、学年暦を柔軟化し、より効果的な学修を実現させる。
- ・ GPA制度の見直しやシラバスの英語化等を推進する。

### ○ 広報の充実の取組

- ・ 本学Webページの英語化とGlobal Japan Officeの情報を英語により発信するなど、海外への広報を充実させる。

### ○ ガバナンス改革への取組

- ・ 学長の主導の下、意思決定を迅速に行うため、総合戦略会議を設置する。同時に、決定事項・方針を遅滞なく伝え、速やかに実行に移す体制を整備する。
- ・ 年俸制の導入やテニュアトラックを拡充し、教育研究の高度化や教員の流動性の向上を推進する。
- ・ 経営協議会学外委員に外国人委員を委嘱し、教育・研究分野における国際的な視点からの助言、提言を得る。

### ○ Global Japan Officeの展開とTUFSS留学支援共同利用センターの取組

- ・ 海外の協定校に、Global Japan Officeを開設する。※詳細は以下の【特徴的な取組】を参照
- ・ TUFSS留学支援共同利用センターの活動により、国内他大学から世界諸地域に派遣される日本人学生に対し、事前・事後教育の提供と、世界諸地域から国内他大学へ留学する外国人学生に対し、日本語及び母語によるコミュニティ・サポートを提供する。
- ・ 留学生OBの追跡調査、及びTUFSSグローバルコミュニティ事業を充実させ、現地での日本人留学生への支援、海外インターンシップなどへの協力体制を構築する。

◆世界各地へのGlobal Japan Office 設置数…… 0 拠点 → 38 拠点

### ○ 学部新設・大学院改組等に関係して検討・実現する制度設計の取組

- ・ 全学教養日本力プログラムや国際日本教育プログラムにより、国際社会に飛び立ち、実践的に活躍する本学卒業生の日本についての発信力を高める。
- ・ 国際バカロレア認定校からの入学者選抜や渡航前入試を実施し、入試の多様化を推進する。
- ・ 大学院博士前期課程に、平成28年度から新たに「国際日本専攻」を設置し、総合力・実践力・日本力を備えた、研究者を含む高度な職業人材を国際社会に送り出すことを目指す。

## 【特徴的な取組(国際化、ガバナンス改革、教育改革等)】

### Global Japan Office の世界展開—10年後には38 拠点に—

本構想で本学が掲げる「人と知の循環を支えるネットワーク中核大学」の実現のため、平成35年度までの10年間で、世界各地に38の海外拠点(Global Japan Office)の設置を計画している。同Officeは、日本への留学を目指す学生へのサポート、日本語・日本文化の普及と発信、本学の共同教育プログラムの実施拠点等の役割を担っている。

### Joint Education Program—海外協定校との多様な共同教育プログラム—

本学での夏季集中セミナー、海外協定校での共同授業、本学と海外協定校の学生がともに参加するスタディーツアーなど、海外協定校と多様な分野にわたる共同教育プログラム(Joint Education Program)を開設する。平成35年度までの10年間で50プログラムの開設を計画している。

### 留学200%—1人2回以上の留学—

本学独自の目標として、在学中に2回以上の留学を経験する「留学200%」を掲げている。交換留学や短期留学、協定校とのJoint Education Programなどを拡充し、在学中に複数回留学する機会を設けることで、真の多言語グローバル人材の育成を目指す。平成35年度時点で、全学生の90%が「留学200%」達成することを目指している。

### CEFR—J×27 Project—語学を中心とした教育指標の可視化—

本学で学べる27言語すべてを統一基準で評価する。本学では、ヨーロッパから世界に広がりつつある言語共通の習得度の指標であるCEFRに準拠し、初級レベルを中心に細分化したCEFR-Jの多言語展開を試みており、各言語の達成度を、CEFR-Jを用いて可視化する。

## 2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)



〈東京外国語大学留学促進キャラクター:トビたくん〉

### ■ 共通の成果指標と達成目標

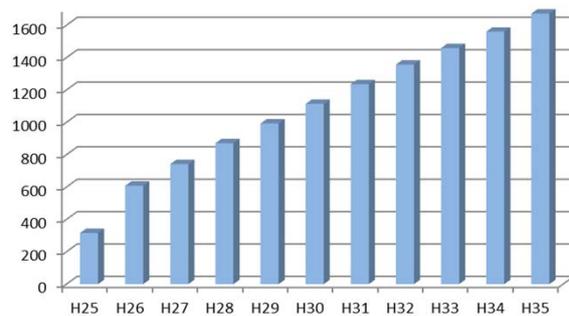
#### 国際化関連

##### ○ 留学生受入増への取組

- ・ 交流協定校の拡大により、協定に基づく受入留学生在が、前年(196名)に比べ、37名増加した。このほか、通年の受入留学生については、前年(698名)に比べ、35名増加した。
- ・ 交流協定校に在籍する日本語学習者を対象とした、ショートステイ・ウィンター・プログラム(4週間の集中講座)を開催し、参加した5大学24名の留學生に修了証を授与した。
- ・ 以上のような留學生受入れの増加により本学の国際化が進み、学生の学習環境の国際化が進んだ。

##### ○ 本学からの派遣留學生増への取組

- ・ 交流協定校の拡大や短期海外留学制度の開始により、協定校への派遣留學生が、前年(310名)に比べ、258名増加した。
- ・ 交流協定校に日本語教育実習生を派遣することにより、日本語教室の運営、日本語教師に求められる基本的な知識及び技能を学ぶ機会を得、実践力を養うことができた。
- ・ 派遣する学生を対象とした危機管理体制の充実により、留学が円滑に推進できた。



##### ○ 広報の充実の取組

- ・ 海外への広報を強化するため、27言語による大学紹介パンフレットの作成や英語による本学Webページのリニューアル、Global Japan Officeの情報を英語により発信することなどの取組を行った。

##### ○ 教職員の多様化・高度化への取組

- ・ 新たに採用した外国籍の教員が、平成27年度の学部世界教養プログラムや、大学院博士前期課程の授業計画に参画しているほか、高大連携事業や広報業務にも従事し、学生の国際理解や英語運用能力の向上、学生の確保や教育研究情報の発信に貢献した。
- ・ 職員の学内英語研修への参加や、海外における業務従事(13名の職員が、延べ9ヶ国)により、国際化支援体制が強化された。

#### 教育改革関連

##### ○ 協定校とのJoint Education Programの実施のための取組

- ・ 平成35年度の50プログラムを目標に、26年度は12のプログラムを実施した。

##### ■モスクワ国際関係大学

ロシアを代表とする日本政治の研究者であるストレツォフ教授を招き「日ロ関係の課題と展望」をテーマとする集中講義及びセミナーを実施した。

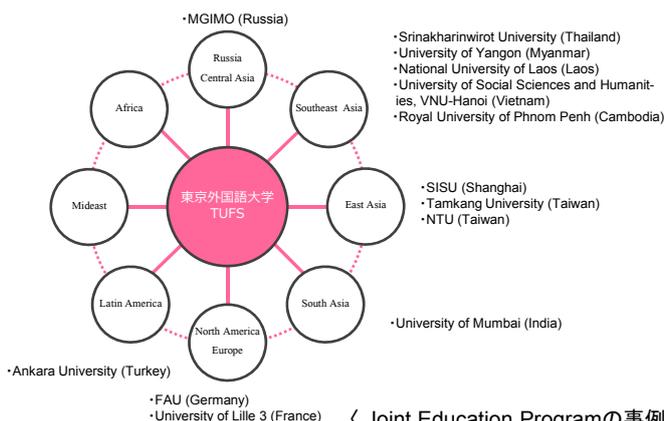
##### ■エアランゲン大学

エアランゲン大学で日本語を学ぶ学生30名が日本に来日し、本学の学生とともに「日独タンデム合宿」と「日本語教育専修コース・インターンシップ」を組み合わせたプログラムを実施した。

##### ■淡江大学

本学学生が淡江大学の授業を参観すると同時に、自ら教壇に立ち、日本語教育の実習を行った。

##### ■大学院生を世界の9協定校に派遣し、協定校の関連分野の教員から指導を受ける機会を提供した。



〈本学学生が海外で学習支援を行っている様子〉

〈 Joint Education Programの事例 〉

## ○ 教務システムの国際化の取組

- 平成27年度からのTUFSCクォーター制(春学期:4~6月、夏学期:7~9月、秋学期:10~12月、冬学期:1~3月)移行に向け準備を進めるとともに、同制度の夏学期を試行的に実施し、これにより短期の派遣留学が大幅に増加した。

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
従来の セメスター制	春学期 4/1~9/30						秋学期 10/1~3/31					
TUFSクォーター制	春学期 4/1~7/11		夏学期 7/12~9/30			秋学期 10/1~1/23			冬学期 1/24~3/31			

〈TUFSCクォーター制のイメージ〉

- シラバスの英語化・外国語化については、前年度(193科目)に比べ、315科目増加した。これにより教育の国際通用性が増加した。
- 4,351科目中3,071科目を対象にシラバスに関するアンケートを含む学生による授業評価アンケートを実施するなどして教育効果を検証した。その結果をもとに、教育の改善に取り組んだ。
- 「語学を中心とした教育指標の可視化」を達成するため、TUFSポートフォリオの構築を行い、留学歴や語学の学習達成度をポートフォリオに組み込んだ。これにより、より効果的な学習指導を行う体制が整備された。

## ○ 学部新設・大学院改組等に関して検討・実現する制度設計の取組

- 発信力強化プランの取組の一つとして実施する「全学教養日本カプログラム」について、平成27年度からの開始に向け、プログラム設計、パンフレット作成などの準備を行った。
- 国際バカロレア認定校からの入学者選抜により、本学の入試が多様化した。また、海外における渡航前入試の導入に向けた準備を進めた。

## ガバナンス改革関連

### ○ ガバナンス改革への取組

- 学長の主導の下、意思決定を迅速に行うため、総合戦略会議を設置し、同時に、決定事項・方針を遅滞なく伝え、速やかに実行に移す体制を整備した。
- 本学独自の年俸制に基づき、前年(43人)に加え、新たに1名に年俸制が適用された。今後、平成27年度から新たに導入される年俸制により、教育研究の高度化や教員の流動性が更に推進される。なお、導入された年俸制に、平成27年4月1日より新たに6名の教員が移行することとなった。
- 入試課やIRオフィスに専門職員を配置し、海外での入学者選抜に関する調査・検討を進め、世界バカロレア認定校からの入学者選抜を導入し、入試の国際化に着手した。

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標及び大学の特性を踏まえた特徴ある取組

### ○ Global Japan Officeの展開とTUFS留学支援共同利用センターの取組

- 12月には、ミャンマーのヤンゴン大学及び台湾の淡江大学に、2月にはイギリスのロンドン大学にそれぞれGlobal Japan Officeを設置し活動を開始した。また2月には、エジプトのカイロ大学にGlobal Japan Deskを開設し活動を開始した。これらのオフィスでは、日本紹介活動、インターネットを経由した遠隔授業、本学学生の日本語教育インターンシップ等が実施された。
- 1月には、留学支援共同利用センターを開設し、本学学生の留学及び受入留学生の支援体制が充実した。



〈ヤンゴン大学Global Japan Office  
開所式の様子〉

### ○ 言語関係の取組

- 10月からの準備期間を経て、12月に「CEFR-J x 27プロジェクト」を立ち上げ、語学運用能力指標の開発に着手した。
- 卒業までの英語の最低保障の目標として掲げた「TOEIC800点」の達成者は、前年度(1,077人)比、△39人であった。また、TOEIC800点を達成した者の次の目標については、英語以外の外国語において[CEFR-J/C1]を達成した者は10名、また、英語においてTOEIC900点を達成した者は、348名であった。このような成果を学生・教員が共有できるよう、学務情報システム・ポートフォリオの改善を行った。これにより、学生の意欲向上につながるのと同時に、本学の教育内容の改善につながる。
- 外国語で開講される授業科目数は、前年度(144科目)比、5科目増加し、多言語による学びの場が実現した。

27言語全てをCEFR-Jによる統一基準で評価します。



TUFS 27言語		
英語	ドイツ語	ポーランド語
チェコ語	フランス語	イタリア語
スペイン語	ポルトガル語	
ロシア語	モンゴル語	中国語
朝鮮語	フィリピン語	
インドネシア語	マレーシア語	
ビルマ語	タイ語	ラオス語
ベトナム語	カンボジア語	
ウルドゥー語	ヒンディー語	
ベンガル語	アラビア語	
ペルシア語	トルコ語	日本語

〈CEFR-J プロジェクトのイメージ〉

## ■ 自由記述欄

### ○ 平成27年度に向けて

本学の掲げる構想実現に向け、平成27年度も着実に取り組んでまいります。

- Joint Education Programの対象を、学部学生から大学院学生まで広げ、より多くの学生へ学修機会を提供します。
- 協定校への交換留学、夏学期・冬学期の短期留学が740名程度に拡大します。
- 世界中の協定校等に呼びかけ、ショートステイプログラムを拡充し、現状の40名程度から90名程度受入れます。
- TUFSクォーター制による夏学期に多彩な科目を開講し、他大学や協定高校の学生等との共学を実現します。
- Global Japan Officeの設置を着実に展開します。(現状では、中国(上海)、韓国、メキシコ、ブラジル等を予定)

### 3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)



(東京外国語大学留学促進キャラクター:トビタくん)

#### ■ 共通の成果指標と達成目標

##### 国際化関連

###### ○ 留学生受入増への取組

- ・ 学生交流協定を新たに13大学と締結し、今後、協定に基づく受入留学生在が21名増加(派遣学生も同数)する。
- ・ 協定に基づく受入留学生在が、前年(606名)に比べ、9名増加したほか、通年の受入留学生については、前年(733名)に比べ、127名増加した。
- ・ 交流協定校に在籍する日本語学習者を対象とした、ショートステイ・サマーコース及びウィンターコース(サマーは3週間、ウィンターは4週間の集中講座)を開催し、参加した81名の留學生に修了証を授与した。

###### ○ 本学からの派遣留學生増への取組

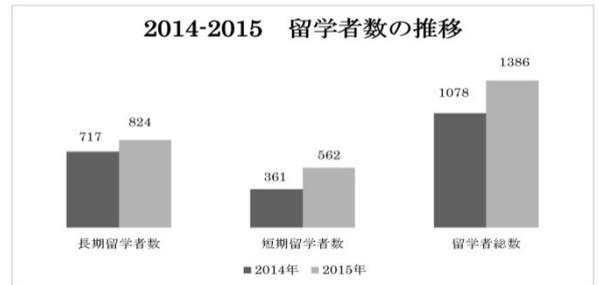
- ・ 派遣留學生は、協定校の短期海外留学を中心として、前年(568名)に比べ、229名増加した。
- ・ 派遣する學生を対象とした本学独自の危機管理システム「ただいま海外留學中」を導入し、更に安全安心な留學が可能となった。

###### ○ 広報の充実の取組

- ・ Webページの英語化の体制を強化することにより、英語による掲載範囲の拡大や掲載時間の短縮を図った。
- ・ Global Japan Officeの活動などを日英両言語併記で発信するなどにより、国際的な観点からの広報が充実した。

###### ○ 教職員の多様化・高度化への取組

- ・ 国際日本学研究院に新たに外国籍の教員を採用し、平成28年度の博士前期課程国際日本専攻の開設準備を進めたほか、博士前期課程地域・国際専攻「日本歴史文化論」や英語による世界教養プログラム科目(「Japanese History」など)を担当し、學生の国際理解や英語運用能力の向上に貢献した。
- ・ 職員の学内英語研修への参加や、海外における業務従事(5名の職員が延べ4ヶ国)により、英語の実践的な運用能力が向上するとともに、教育研究支援体制の国際化が進んだ。



※留學種別を問わない



「ただいま海外留學中」サイト

##### 教育改革関連

###### ○ 協定校とのJoint Education Programの実施のための取組

- ・ 協定校とのJoint Education Programを学部において9件実施したほか、大学院において19名の大学院生が協定校などの関係教員から研究指導を受けた。
- ・ 国立台湾師範大学  
「科学としての外国語教育学入門」をテーマに、学習者の心理学、学習者コーパス、e-learningの基礎理論を学ぶことができた。
- ・ エアランゲン・ニュルンベルグ大学  
エアランゲン・ニュルンベルグ大学の日本語学専攻學生22名と、本学でドイツ語を学ぶ學生27名が、日独タンデム合宿及び日本語教育専修コース・インターンシップを行った。
- ・ Joint Education Programを、新たに制度化した一般聴講生制度において開放し、連携高校生が受講することにより本学の教育内容への理解が広がった。

###### ○ 教務システムの国際化の取組

- ・ TUFSCクォーター制の導入により、学年暦が柔軟化され、ショートビジットが増加するなど、多様で効果的な学修が実現した。
- ・ TUFSCポートフォリオによる、諸言語の学習履歴及び達成度の確認や、留學情報の確実な把握など効果的な学習指導を行うことが可能となった。
- ・ 學生アンケートを分析し、言語文化学部及び国際社会学部において報告書として取り纏めた。
- ・ 全てのシラバスを英語化・外国語化することにより、教育の国際性が増した。

	従来のセメスター制	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
		春学期 4/1~9/30						秋学期 10/1~3/31					
TUFSCクォーター制		春学期 4/1~7/11		夏学期 7/12~9/30			秋学期 10/1~1/23			冬学期 1/24~3/31			

○ **学部新設・大学院改組に係る検討・実現する制度設計の取組**

- ・ 世界に飛び立つ前に、日本語と日本の文化、歴史、社会などを学び、「日本力」を高めるため、全学教養日本力プログラムを開始したほか、日本語未習の留学生を主な対象とする「国際日本プログラム」の平成28年度開始に向け、設計や準備を進めた。
- ・ 「国際日本プログラム」への入学者選抜のため、教員を海外協定校へ派遣して調整のうえ、スカイプ等による面接で渡日前選抜を実施した。

**ガバナンス改革関連**

○ **ガバナンス改革への取組**

- ・ 総合戦略会議を設置し、4つの機能別オフィスと各オフィスにWGを設け、学長を中心とした機動的な大学運営を推進した。
- ・ 年俸制を導入し、新たに7名の教員が年俸制に移行するとともに、平成28年度のクロスアポイントメント制度の導入により、教育研究の高度化や教員の流動性が推進される。

■ **大学独自の成果指標と達成目標**

○ **Global Japan Officeの展開とTUFS留学支援共同利用センターの取組**

- ・ 新たに上海外国語大学(中国)、韓国外国語大学校(韓国)、サラマンカ大学(スペイン)、グアナフアト大学(メキシコ)、ベオグラード大学(セルビア)及びリオ・デ・ジャネイロ州立大学(ブラジル)にGlobal Japan Officeを設置し、日本語・日本文化の普及と発信活動を開始した。
- ・ 既設の、ヤンゴンオフィス、ロンドンオフィス、カイロオフィス及び淡江オフィスでは引き続き日本語・日本文化の普及と発信活動を行うとともに、各オフィスに配置したコーディネーターのうち、初任者4名を本学に招へいし、大学説明会を開催した。
- ・ ヤンゴンオフィスでは、正課外で行っている日本語教室の初習受講生から、日本に対する興味や関心についてのエッセーを求めた結果、日本に対する高い関心が読み取れた。
- ・ TUFS留学支援共同利用センターにおいて、平成26年度の留学状況を分析し、新たに「留学白書」として取り纏め刊行した。今後、この白書により、留学状況を把握し派遣留学の増加に活用する。
- ・ TUFSグローバルコミュニティ会合を、カイロ(エジプト)、グアナフアト(メキシコ)やマドリッド(スペイン)など7カ所で開催し、本学からの留学生、卒業生と本学関係者など計127名が出席し、相互に情報交換を行った。なお、平成27年開催の会合参加者を対象にアンケート調査を行い、会合の成果を確認した。



〈リオ・デ・ジャネイロ州立大学GJO開所式の様子〉



〈ベオグラード大学GJO開所式の様子〉

○ **言語関係の取組**

- ・ 卒業までの英語の最低保障の目標として掲げた「TOIEC800点」の達成者は、前年度(1,038人)比、388人増であった。また、TOIEC800点を達成したものの次の目標のうち、英語においてTOIEC900点を達成した者は、前年度(348人)比、137人増であった。
- ・ 外国語で開講される授業科目数は、前年度(149科目)比、45科目増加し、多言語による学びの場が実現した。

■ **大学の特性を踏まえた特徴ある取組(タイプBのみ)**

○ **英語以外の外国語のCEFR等の国際標準に基づいた言語能力指標の設定**

- ・ 国際基準であるCEFRに準拠し、同基準の下位レベルを精密化した、「CEFR-J」に基づく言語能力指標の整備の一環として見本となる英語による指標サンプルを作成した。また、英語以外の26言語の教育担当者と協議し、授業カリキュラム、指導法、評価、利用可能な教材・言語資源などの聞き取り調査を行った。
- ・ 語学能力指標開発ため、英語については、TOEIC公開テスト団体一括受験(受験者1,342名)を、その他の言語については、トルコ語(受験者12名)、ドイツ語(受験者54名)及びフランス語(受験者62名)の各言語外部試験を受験させた。

27言語全てをCEFR-Jによる統一基準で評価します。



TUFS 27言語		
英語	ドイツ語	ポーランド語
チェコ語	フランス語	イタリア語
スペイン語	ポルトガル語	
ロシア語	モンゴル語	中国語
朝鮮語	フィリピン語	
インドネシア語	マレーシア語	
ビルマ語	タイ語	ラオス語
ベトナム語	カンボジア語	
ウルドゥー語	ヒンディー語	
ベンガル語	アラビア語	
ペルシア語	トルコ語	日本語

〈CEFR-J プロジェクトのイメージ〉

■ **自由記述欄**

○ **平成28年度に向けて**

- ・ 平成28年度も、本学の掲げる構想実現に向け、着実に取り組んでまいります。
- ・ 本学における集中セミナー、本学学生と海外協定校の学生がともに参加するスタディーツアー、遠隔授業、大学院生の共同指導など、新たな形態によるJoint Education Programを開拓します。
- ・ Global Japan Officeを着実に拡充します。(イラン、オーストラリア、トルクメニスタン、ザンビアを予定)
- ・ 協定校への交換留学を260名程度に拡大します。
- ・ 平成27年度に導入したTUFクォーター制について、教育アドミニストレーション・オフィスが運用状況を点検し、改善への提言を行います。
- ・ 留学促進のための短期海外留学科目を修士課程に設置します。